

## 中学部 保健体育科 「メダルダッシュ①」 ～特総体に向けて～

指導に当たって  
(6月)

1～3年生25名を対象に、出場種目に応じて「グラウンドゴルフ(GG)」「フライングディスク(FD)」「球技」の3グループで学習を進めてきました。6月は、各種目の運動技能の向上を目指して、次の点について重点的に授業を行いました。

### 各種目の「上達のポイント」は絞り込んで

技能が習得しやすいように、各種目とも「上達のポイント」を3～4つに絞り、6月から、毎時間一つずつ提示してきました。  
参照：メダルシート

### 体育ノートを活用した振り返り

学びを積み重ねていけるように、全種目で、毎時間体育ノート(メダルシート)を活用して振り返りを行い、次時へつなげてきました。

### 「上達のポイント」はイラストと擬音語で

GGとFDでは、「上達のポイント」を理解しやすいように、例えば「ゴール(に)ビーム」とイラストを添えて提示してきました。球技では、分かりやすいようにイラストで示しました。  
参照：メダルシート

### 体トレ(週3回)の活用

保健体育の時間は、月曜の5・6校時ですが、体トレの時間も種目ごとに練習しました。体トレの時間も使うことで、「上達のポイント」を忘れることなく、学びを積み重ねることができました。

### 動画で記録して自己評価に

練習中のフォーム(全種目)や攻守の動き(球技)を動画で記録し、自分で振り返られるようにしてきました。



### 種目別の工夫

GG：「上達のポイント」の習得のために、手首を固定するための補助具を準備しました。  
FD：大会に見通しがもてるように、本番に近い環境(審判・ベンチ)を設定し、練習を重ねてきました。  
球技：特総体ではバスケットボールとサッカーに出場します。比較的ボール操作が容易なポートボールで、パスがつながるように練習し、特総体でも生かせるようにしました。

## 6月28日 事前研究会では・・・ <GG>

協議題「自分のめあてが分かり、自己評価するための支援(体育ノート、動画活用)は、どうあればよいか」

#### 「めあてを見失わないために」

- ・イメージをもつ(動画等)
- ・ポイントの即時評価(教師のフィードバック)
- ・生徒の評価

#### 「生徒が自己評価できる規準」

- ・ポイントの即時評価(教師のフィードバック)
- ・生徒が自分で評価できる基準、ポイント、めあての提示

#### 「動画を撮ってすぐ見せる」「モーションショットの活用」

- ・「手首カチカチが下手だった」と言い、体育ノートは全て丸だった。どこができなかったかなどの自己評価が難しい。

栗田支援学校から、教諭(兼)教育専門監 石垣 徹先生をお招きして、指導助言をいただきました。



#### 【上達ポイント、活動内容、ねらいの示し方】

最初から最後まで見通しがもてるような説明が必要。分かりやすくイメージしやすい言葉で、示し方もよかった。

#### 【うまくできない生徒への支援】

まっすぐ打てない生徒には、どんな支援や手立てがあればよいか。どのようにして「やった!できた!楽しい!」につなげていくか。そういう見方考え方で授業を計画する。

#### 【活動内容の工夫】

「楽しかった。次は何だろうという気持ち」「できないことが一つでもできるようになったうれしさ」「さらにうまくなったという体験」が生まれる内容を工夫する。

#### 【教師の支援が必要だったこと】

クラブの持ち方が逆、右打ちなのに左打ちをしてしまう生徒が結構いた。打ち方、オーバーしたときのフォームなどは、教師の支援が必要だった。

2学期GGグループは、特総体当日を想定した練習を通して、ホールまでの距離に合わせた力加減を学びます。



ホールポストまでの距離に合わせた打ち方（力加減）の練習について

- 「コツントライ」と「ゴツントライ」。言葉が似ているので、「カキーン（強）」と「コツン（弱）」ではどうか。
- とにかく実践！という時期ではないのか。
- 長短のコースに合わせた強弱の打ち方に加え、体の向きも大切。
- ホールインワンを目指す、コースに応じて打数の目標があると、作戦にもつながると思う。

学習評価について

- 動画を使うのがよい。子どもの発言を生かして、評価を入れ、教師が子どもに返すことが大事。
- 生徒が互いに見て、気付いた点を伝え合ってはどうか。見ている選手が、ホールポストまでの距離を見て「強（弱）く」と言葉を掛けられるようにしてはどうか。

全校授業研究会を控え、8月30日に、栗田支援学校 石垣 徹先生が授業を参観し、助言してくださいました。



- ・目標打数を設定した練習（遠い・中くらい・近い）と特総体をイメージしたコース練習（全4コース）という学習の流れがよかった。

**（振り幅の）大中小カードについて**

- ・主に1打目を打つときのカードとして、個々に打つ前に、自分で考えたり、人に伝えたりするために使っていたが、2打目以降も使用できたのではないかと。
- 2打目以降は距離もばらばらになるので、カードを自分で見て打ち方を判断するなど、有効に生かすちょっとした工夫ができるのではないかと。

**支援について**

- ・多くの生徒が、ボールをセットし、構え、4つのポイントを意識して打つ中で、鎌・琉さんは、まっすぐ立つこと、打ち出す方向の部分などやり方が分からないでいる。
- ・GGは生徒8人に教師2人。どのようなアドバイスや支援をすれば、分からない生徒が分かるようになるか。T-T間で話し合ってみてほしい。生徒にとってよい方向にいくように、支援が見えるように、少しでも工夫をしてほしい。
- ・そのために、鎌・琉さんが打つときの状況を、T-Tで打合せて、授業に生かす。

**第1回全校研究授業（9月6日）**

**中学部 保健体育科 「メダルダッシュ①～特総体に向けて～」**

協議題 「上達を目指し、生徒が伝え合い、高め合いながら運動する場の設定について」

GGを  
みてく  
ださい

**参観ポイントその1**

**「（振り幅の）大中小カード」の活用について**

- ・個々に打つ前に、ホールまでの距離に応じて打ち方の強弱（振り幅の大小）を自分で考えたり、友達に助言したりするために使っています。協議題にも直結する、今回の授業の目玉です。
- ・有効に活用されているかどうか、有効に活用するためにどのようにしたらよいか、付箋紙で、協議の中で、御意見をください。

**参観ポイントその2**

**うまくできない生徒への支援について**

- ・打ち出す方向がわからず、ホールポストに体を向けて立つことができない生徒、また、急いで打とうとして、これらのことを忘れてしまいがちな生徒にどのような支援（教師から生徒へという支援だけでなく生徒同士の支援を含む）が考えられるか、付箋紙で、協議の中で、御意見をください。